

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	特になし	●対馬暖流域の各層水温はやや高め～はなはだ高めで推移した。特に、6月はすべての流勢指標がプラス偏差となった。	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	特になし	●4月1日、にかほ市平沢沖4マイルの水深約100mの地点で、ダイオウイカ(全長3.06m、47kg)が刺網で捕獲された。秋田県でダイオウイカが確認されたのは、今回が2例目。	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	●いか釣り漁業(小型・中型共に)の大不漁。一方で、底びき網でのスルメイカは好調。	●各調査等でサルバ(モモイロサルバ)の出現を多数確認。	特になし	●6月18日に本県沖を震源とする地震があり、沿岸の漁業関係の施設にも被害があった。

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	●スルメイカ釣り(沖合上層域)の不漁 県全体4～6月のスルメイカ釣りの漁獲量は42トンで、前年、過去5年平均(以下平年)を大きく下回った。(前年比11%、平年比5%) ●スルメイカ底曳網(沿岸下層域)の豊漁 県全体4～6月のスルメイカ底曳の漁獲量は124トンで、前年、平年を上回った。(前年比585%、平年比556%) 吾智網でも平年以上の漁獲が見られた。 ●トビウオの不漁 主な水揚げ地である佐渡地区5～6月のトビウオ漁獲量は5.1トンで前年、平年を大きく下回った。(前年比15%、平年比5%)	●サルバ大量入網 6月下旬頃から新潟地区、寺泊地区および出雲崎地区の板曳網やごち網等にモモイロサルバが入網、一部では操業に支障をきたしている。	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	●アカカマスは秋が主漁期であるが、今年は4～6月に114トン(平均22トン)の漁獲があった。 ●ホタルイカの4～6月漁獲量は324トンで、1953年以降もっとも少なかった。 ●海産そらアユが不漁であった。	●4月の富山湾平均水温が50～150 mではなはだ高く、水深100 mでは11.18℃で1953年以降最高であった。 ●富山湾における漁場環境調査において、COD平均値が2.1 mg/Lと高かった。(平均1.1 mg/L)	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	●大和堆から金沢沖にかけて冷水の張り出しが継続したことにより、能登半島北西沿岸海域にスルメイカ漁場が形成され、全国的に不漁が続く状況にあって、県内の小型イカ釣りによる同種の水揚量は5月に607トン、6月に914トンとなり、直近の5年平均値(5月:665トン、6月:757トン)と5月はほぼ同等、6月は上回る水揚げがあった。 また、県漁協輪島支所では6月の小型底びき網による同種の水揚量が121トンとなり、直近の5年平均値の2トンを上回る水揚げがあった。	●サルバが5月下旬からみられ6月中旬以降多く出現したことにより、底びき網、刺し網の操業に支障があった。	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	●6月にヒラマサが定置網で大量に漁獲された。 2019年4～6月のヒラマサの漁獲量は約118トンであり、前年(約11トン)の約10倍、過去3か年平均(約14トン)の約9倍であった。 なお、漁獲の主体は魚体重が1kg弱の個体であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	●4～6月におけるマイワシの漁獲量は2,326トン(過去5年平均値の24%)となり、記録的不漁となった2014年に次ぎ低調となった。 ●4～6月におけるウルメイワシの漁獲量は6,667トン(過去5年平均比の570%)で、1995年以降で最大の記録的な豊漁となった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	特になし	●冬季の水温低下が弱かった影響もあり、死滅回避魚のハリセンボンが越冬し、小型定置網等に入網し、操業に悪影響を及ぼした。 ●サルバが大量発生し、小型底びき網で曳網時間を短縮せざるを得ない事態が5、6月に起こった。	特になし	特になし

機関名: 鳥根県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	●浜田地区のまき網漁獲量は842トンで過去10か年平均(平年)の55%と低調な漁模様。漁獲の主体はマジで平年の86%の673トン、サバ類は平年の28%の100トンに留まっている。 ●隠岐地区も同様に、まき網漁獲量は18,713トンで平年の79%と低調な状況。魚種別ではウルメイワシが漁獲の4割を占め7,640トンで平年の6倍。マジは平年並みの6,566トン、マイワシは平年の17%の1,754トン、サバ類は平年66%の832トンであった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2019年 4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし